

なごや生きもののライブラリー

なごや生物多様性センター Nagoya Biodiversity Center

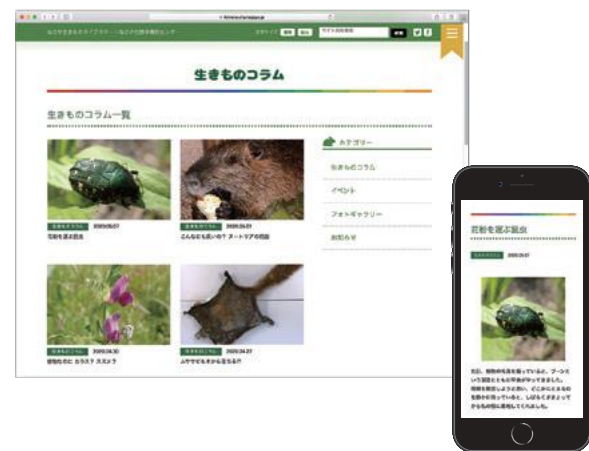
なごや生物多様性センターには多くの生きものの情報が蓄積されています。それらを広く発信するウェブサイト「なごや生きもののライブラリー」が令和2年3月から公開中です！

なごやの自然や生きものを理解し、生物多様性について一緒に考えていきましょう。ぜひ「なごや生きもののライブラリー」で検索して、お楽しみください。
https://ikimono.city.nagoya.jp



生きものコラム

動物や植物を専門とする職員が、豆知識を交えながら、生きものたちの特徴や魅力、不思議について紹介しています。



なごやの生きもの

外来種のが問題なのか、わたしたちにできることはなにかなどを分かりやすく説明しています。また、間違えられやすい生きものたちの見分け方などについても紹介しています。



タヌキ

アライグマ ©環境省

フォトギャラリー

バラエティ豊かな生きものの写真が満載。写真の生きものの名称や分類も記載されているため、環境学習にも活用できます。



ニホンアマガエル ©鳥居亮一



ジョウビタキ ©H.H

そのほか、なごやの主要な緑地で見られる生きものたちや、生物多様性のイベント情報などを掲載しています。



ミンノバとツマグロヒョウモン



ケカマツカ

活動紹介

明和高等学校 SSH部生物班

東区白壁
2-32-6



23名の生徒が所属している明和高等学校SSH部生物班。活動テーマは、主に生きものの飼育や研究を中心に、昆虫、魚類、植物など、一人ひとりが興味のある分野に挑戦。自分のペースで日々部活に励んでいます。

外来種「ムシャクロツバメシジミ」が同校で発見されたことをきっかけに研究を始めた生徒らは「解明されていないことを知るのがおもしろい」と、休日も調査へ出かけるなど、分布拡大についての考察を推進。ほかにも、モンキーセンターで調査を行ったり、なかには入学前から興味があった「ヒラタガムシ」の研究を進める生徒もいたり、実に多彩な活動を繰り広げています。

これらの活動状況は、週1回の部のミーティングで報告。「もっとこの情報を集めてみては？」など、さまざまな意見が活発に飛び交う場となっています。「それはまるでミニ研究所のよう」と顧問の鈴木優美先生が舌を巻くほど。生徒たちの飽くなき好奇心が、互いの研究意欲を高め合っています。

こうした研究成果は、スーパーサイエンススクール（SSH）指定校主催のイベントや、学会の高校生ポスター発表などで披露。コロナ禍のため、今年は発表会なども中止となってはいるものの、オンラインで発表を行うなど、これまで参加できなかった他県の学会にも積極的に参加していく予定です。



ムシャクロツバメシジミの研究



ムシャクロツバメシジミ

掲示板

WEB版

「なごや生物多様性センターまつり/ユースひろば」を開催します

身近な自然の保全再生に取り組む市民団体や中学・高校の生物部等の皆さんが、日頃の活動の成果をお披露目する「なごや生物多様性センターまつり/ユースひろば」。

今年、初めてWEB上で開催することとなりました。

生物多様性センターが運営する「なごや生きもののライブラリー」に特設サイトを設け（10月23日（金）開設予定）皆さんの取り組みを掲載すると共に、11月1日（日）には、中学・高校の生徒さんが参加してライブ配信を行います。皆さん是非ご覧ください！

なお、ライブ配信の視聴には事前申込が必要です。生物多様性センターへ「ライブ配信視聴希望」とEメールをお送りくだされば、パスワードを発行します。



問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104(平日 8:45～17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生きもののライブラリー

なごや生きもののライブラリー 検索

https://ikimono.city.nagoya.jp/



名古屋市公式ウェブサイト

http://www.city.nagoya.jp/

なごや生物多様性保全活動協議会

http://www.bdnagoya.jp/

地下鉄塩釜口駅
2番または3番出口から
徒歩5分



生きもののシンフォニー

いのちかがやくなごや

令和2年9月
31号



特集

自然や生きものと触れ合った11講座

2020

なごや生物多様性サマースクール

さまざまな生きものと触れ合うひと夏の体験。今年も、観察や調査、ものづくりなど、好奇心くすぐる「サマースクール」11講座を開催しました！



8月1日(土) 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう！ 講師：相生山緑地オアシスの森くらぶ	8月2日(日) 外来種の昆虫を捕って駆除しよう 講師：なごや外来種を考える会	8月2日(日) 天白川の水源を訪ねてみよう 講師：名古屋自然観察会	8月2日(日) 竹林調査と水鉄砲作り 講師：花水緑の会
8月2日(日) 山崎川の生き物観察会 講師：山崎川グリーンマップ	8月5日(水) 大矢川源流域の生きもの探し 講師：愛知守山自然の会	8月8日(土) チョウの採集と標本づくり 講師：名古屋昆虫同好会	8月8日(土) 甲虫の採集と標本づくり 講師：名古屋昆虫同好会
8月23日(日) 葉っぱの標本づくり&葉っぱパズルで遊ぼう！ 講師：相生山緑地自然観察会	8月29日(土) 猪高緑地の水の生き物観察 講師：名東自然倶楽部	8月29日(土) 調べてみよう！川の生きもの 講師：日進野菜塾	

CONTENTS

特集

なごや生物多様性サマースクール2020 P1～3

TOPICS 野外で見つかった外来の大型スッポン ～フロリダスッポン～ P3～4

なごや生きもののライブラリーの紹介 P5

活動紹介 明和高等学校 SSH部生物班 P6

掲示板 WEB版「なごや生物多様性センターまつり/ユースひろば」を開催します P6

なごや生物多様性サマースクール

外来昆虫の駆除や昆虫標本づくりも

「なごや生物多様性保全活動協議会」では、子どもたちが夏休みの自由研究に生かせるよう、さまざまな生きものと触れ合える「サマースクール」を開催しています。今年も、身近で生息・生育している生きものをテーマに、子どもたちが楽しみながら学んだ講座の様子をご紹介します。



チョウ・甲虫の採集と標本づくり

8月8日(土)

講師：名古屋昆虫同好会
場所：猪高緑地(名東区)
なごや生物多様性センター(天白区)

子どもたちに大人気の「昆虫採集と標本づくり」。この講座では、チョウ班と甲虫班に分かれて、午前中に採集、午後に標本づくりを行いました。

採集場所となった猪高緑地には、たくさんの生きものが生息しています。あいにく、前日の土砂降りで樹液

が流れた可能性もあり、序盤は苦戦するグループも見られました。それでも、子どもたちは元気いっぱいに動きまわり、根気よく昆虫を捕っては虫カゴに収集。どんな生きものが質問したり、思わぬところで発見したり、初めてカブトムシを捕まえたと興奮するなど、様々な子どもたちの姿がありました。

午後は、採集した昆虫を持ち帰り、なごや生物多様性センターで標本づくりに挑戦。生きものによっては翅を広げたり、脚をそろえたり、ピンセットや針を使って左右対称に整えるなど、細かな作業に没頭。なかには、親子で協力しながら標本づくりを楽しむシーンも見られました。これを2〜3週間乾燥させてから針を取り除き、標本箱に入れて完成となります。

標本は「今日、その場所に、この昆虫がいた」という証拠です。参加者らは、採集と標本づくりを通して、多くの生きものに触れ、猪高緑地の豊かな自然を感じる一日を過ごしました。



外来種の昆虫を捕って駆除しよう

8月22日(日)

講師：なごや外来種を考える会
場所：猪高緑地(名東区)

日本の生態系を脅かす外来生物。昨今では昆虫類にも多く見られ、問題となっています。今回やってきたのは、名東区の猪高緑地。ここでは「なごや外来種を考える会」のメンバーを講師に迎え、外来種の昆虫を捕まえ、取り除く活動を体験しました。

猪高緑地で探す外来昆虫は、黄色い斑模様があるキマダラカメムシ、竹林にいるタイワンタケクマバチ、在来種の1.2倍ほど大きいムネアカハラビロカマキリなど。どれも人間の活動が盛んになったことで、意図せずやってきた生きものたち。しかし、在来種にとって迷惑な昆虫もいるため、駆除が必要となります。調査前に対象昆虫の説明や駆除理由などを伝えた後、子どもたちははりきって昆虫探しへ出かけていきました。緑地の外縁、道路際に出ると、さっそく「キマダラカメムシ」を発見。なかには、脱皮前の赤い模様をした幼虫もありました。その後、森の中へ進んでいくと、オオカマキリやナナフシ、オシオカラトンボ、カブトムシ、トノサマバッタなど、在来昆虫ばかりを続々ゲット。このことから外来昆虫は、森の奥まで侵入していない可能性が高いことが分かりました。

今回捕まえた外来昆虫は、講師側で駆除。在来種を守るため、子どもたちは、調査前に学んだことを噛みしめながら、駆除活動に貢献することができました。



捕まえたキマダラカメムシはまとめて駆除

TOPICS

野外で見つかった外来の大型スッポン ～フロリダスッポン～

2020年7月8日、知多半島の美浜町海岸で大型のスッポン類が捕獲されました。捕獲したのは地元の漁師さんで、海岸沿いの陸地を歩いていたところを見つけて捕獲したとのこと。あまりにも大きかったため、ただのスッポンではないということで、いくつかの機関に連絡したそうです。しかし、種が特定できなかったため、最終的に「なごや生物多様性センター」に連絡したとのことでした。

写真を見せていただいたところ、一見してニホンスッポンではなく、アメリカスッポン属のフロリダスッポンと同定できました(写真1)。フロリダスッポンの特徴の一つは、背甲の先端に並ぶコブ状の突起です(写真2：右の個体)。ニホンスッポンにはこのような突起がありません(写真2：左の個体)。

今回、捕獲された個体は、背甲長が44cm、体重が7.3kgのメスでした。原産地でのフロリダスッポンのメスは最大背甲長が67cmにもなるとされますから、この個体はまだ大きく育つ可能性があります。

どうして海岸沿いを歩いていたのかは不明です。近くに飼育者がいて逃げられたのか、あるいは捨てられてしまったのでしょうか。河川を通じて海までやってきた可能性もあります。捕獲場所のすぐ近くには山王川の河口があります。フロリダスッポンの原産地フロリダでは河口付近の汽水域にも侵入してくるということですので、河口に侵入したものの海まで出てしまい、どうにもならなくなって陸上に上がった可能性もあります。しかし、いずれにしても確実なことは言えず、淡水性のカメが、なぜ海岸沿いで見つかったのかという疑問は残ります。

名古屋市内でも名古屋城近くの堀川でフロリダスッポンが見つかっています(写真3)。堀川では、フロリダスッポンが2017年頃より確認されていますが、未だに捕獲できていません。今回、美浜町で捕獲された個体と堀川で見つかる個体が同一個体であるのかどうか、背甲の先端に並ぶコブ状の突起が写っている写真を比較しました。突起の並びなどから、美浜町で捕獲された個体は、

堀川で確認された個体とは別個体であると判断できました。このことから、愛知県内では分かっている限り、2個体のフロリダスッポンが野外に逸出したということになります。

フロリダスッポンは以前からペットショップで販売されてきました。幼体の時には背甲に黄色の模様が入り非常にきれいなカメです(写真4：リミックス・ペポニ提供)。しかし、成長すると模様が消え、地味な色彩になります。さらに大型になりますので、飼育が面倒になり捨てられてしまうことがあるのかもしれません。

今回、美浜町で捕獲された個体は、現在、「なごや生物多様性センター」で飼育しています。大変な大食い、大型のアメリカザリガニを10匹くらい与えても、あっという間に平らげてしまいます。原産地では、大型の個体は貝類を砕いて食べることが多いとのこと。もし、大型になるフロリダスッポンが、ため池などの閉鎖系に放たれてしまった場合、例え1個体だったとしても、貝類をはじめ在来の水生生物たちに大きな影響を与える可能性があります。

性格についてですが、今回捕獲された個体は比較のおとなしく、人に咬みつような素振りを見せません。しかし、大きな頭部と貝やザリガニを簡単に砕いてしまうほどの顎の力を考慮すると、咬まれた場合は大けがをする可能性も十分にあります。野外で見つけたとしても、大型のカメ類の扱いに慣れている人以外は、安易に触らない方が良いでしょう。

現在、フロリダスッポンを含むアメリカスッポン属は、環境省及び農林水産省の作成した「生態系被害防止外来種リスト」に掲載されています。販売や飼育自体が規制されている訳ではありませんので、ペットショップで購入することもできますが、大型になることをよく考えてから飼育すべき動物です。もし、何らかの理由で飼育を続けることができなくなった場合は、購入したペットショップなどに相談してください。決して野外に捨てないようにお願いします。

なごや生物多様性センター 生物多様性専門員 野呂達哉

【参考文献】 安川雄一郎、2016、スッポン科の分類と自然史⑤—スッポン亜科3—、CREEPER、No75：68-97、クリーパー社。



写真1

美浜町で捕獲されたフロリダスッポン。
背甲長が44cm、体重が7.3kgのメス



写真2

ニホンスッポン(左)とフロリダスッポン(右)の比較。
フロリダスッポンの背甲先端にはコブ状の突起が並ぶ



写真3

名古屋市内の堀川で確認されたフロリダスッポン
(2017年6月20日)



写真4

ペットショップで販売されているフロリダスッポンの幼体
(リミックス・ペポニ提供)